

佐倉市におけるFMの取り組み

- いま目の前にあるFMから始めよう -

室中八策

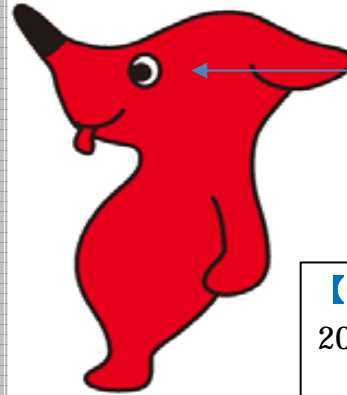
- 一. 公の施設等に関する情報を市民に公開すること
- 一. 市有財産総量の適正化を図ること
- 一. 用途変更等、既存財産の有効活用を積極的に図ること
- 一. 耐震改修工事を迅速に進めるための効率化を図ること
- 一. 適正なパートナーシップに基づく民との連携を進めること
- 一. 広く官としての役割を果たすため官官の連携を強化すること
- 一. 新たな公共サービス知見創出のため学との研究協力を発展させること
- 一. 適正な市有財産のマネジメントを行う体制づくりを強化すること

室中八策
なのぢゃ



【FM 実施内容】

1. 実践型 FM の遂行
2. 市長によるトップマネジメントの推進
3. 「市民」「議会」「行政」三者を繋ぐ FM の構築
4. 新たな公共を目指した官官の FM アライアンス



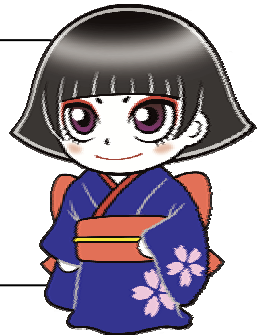
千葉県を象った千葉国体
マスコットキャラクター
「チーバくん」

坂崎千春氏作

「カムロちゃん」
(佐倉・城下町 400 年記念
イメージキャラクター)

【佐倉市の位置・概要】

市の面積：103.59km²
市の人口：約 176,000 人
財政力指数：1.00



【FM 導入の経緯】

- 2007.11 幹部職員 FM 研修（中津元次講師）
FM 導入検討委員会設置
- 2008.04 総務部管財課にファシリティ部門集結
- 2008.09 佐倉市 FM 推進基本方針策定
- 2008.10 全庁一元化保全情報システムの導入
インハウスエスコの実施
全庁横断化による土地交換事業の実施
ESCO 事業の実施 等
- 2010.06 総務部管財課から資産管理経営室へ



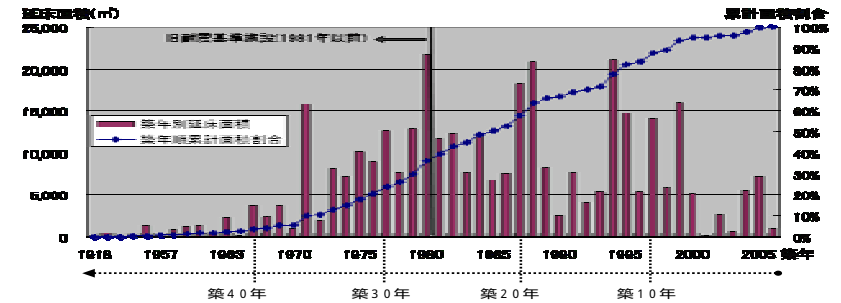
佐倉市における具体的なF Mの取り組み

本市には約560棟(約35万㎡)の公共施設があり、平均築年数は約24年となっている。

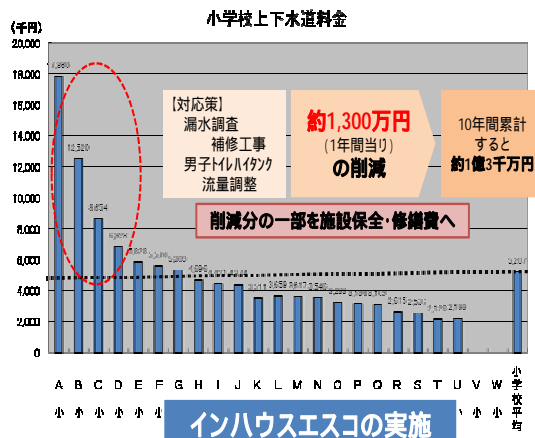
このまま推移すれば、2016年度には、築30年を経過する施設が全体の半数を超えるなど既存ストックの老朽化が進み、その修繕・維持管理費等はますます増加する状況にあり、さらには耐震化の対応などによる改修費用も大きな経費となって来ることが予想される。

こうした状況を踏まえ、当市は市長が議会等における所信表明等においてFMを積極的に実行することを明言し、全庁横断的な取り組みをもってFMを推進している。

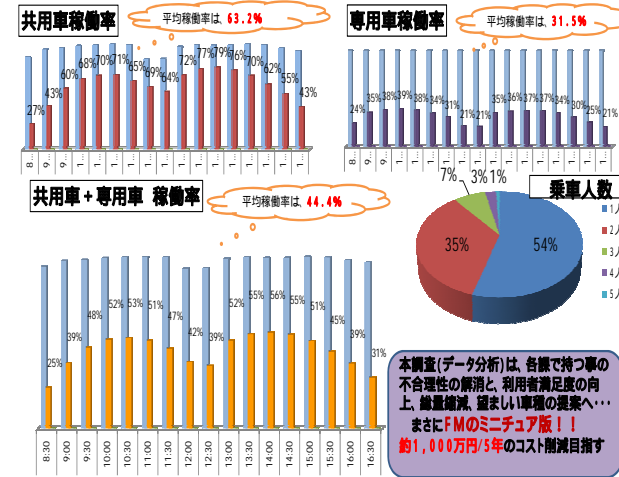
市有施設のストックとその老朽化



インハウスエスコの実施



公用車利用実態調査



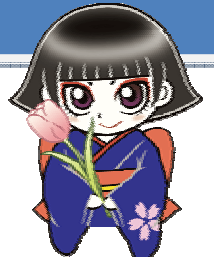
集中化の事例 (階層間)

減築設計の提案



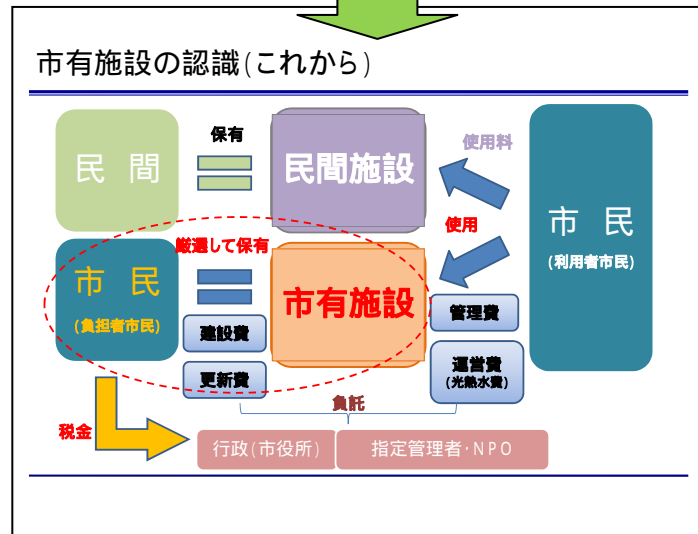
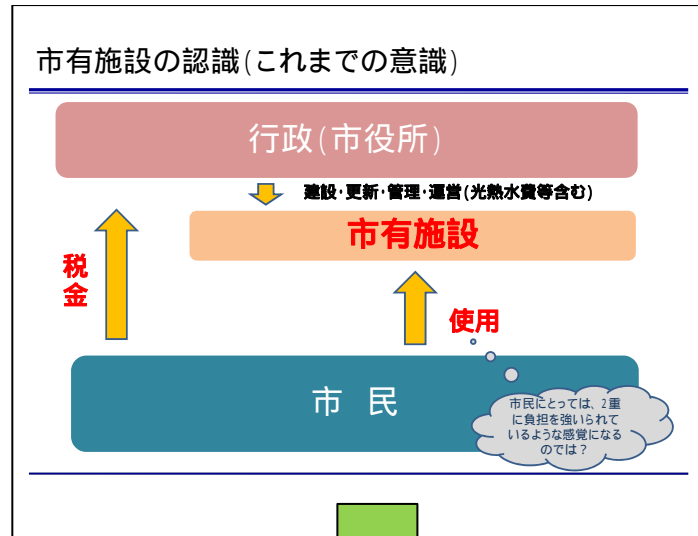
上記のほか、部局を超えた土地交換事業、ESCO事業等を実施した結果、この2年間でのコスト削減効果 1億円以上
 FM広報活動としては、当市を訪れた全国の自治体・議会等 22団体、当市が行った全国の講演会実施回数 14回
 朝のNHK番組「おはよう日本」で放送、朝日新聞記載、大学とのファシリティデータ共有 2大学

佐倉市FMにおける今後のカギ



これまでの、公共施設は行政が建設、更新等を行い、市民はそれを利用するというベクトルであったが、これからは「負担者市民」と「利用者市民」の視点を持った官民連携ベクトルが重要！！

今後のFM戦略上のカギ



今後の大きな課題(カギ)

市有施設面積の60%以上を占める
学校施設の利活用
(能動的コンバージョン等)

- ・少子高齢化社会等、急激な社会情勢の変化に対応(サステナブル建築)
- ・地域コミュニティの真の核としての機能(ボランティア, NPO, 市民連携)

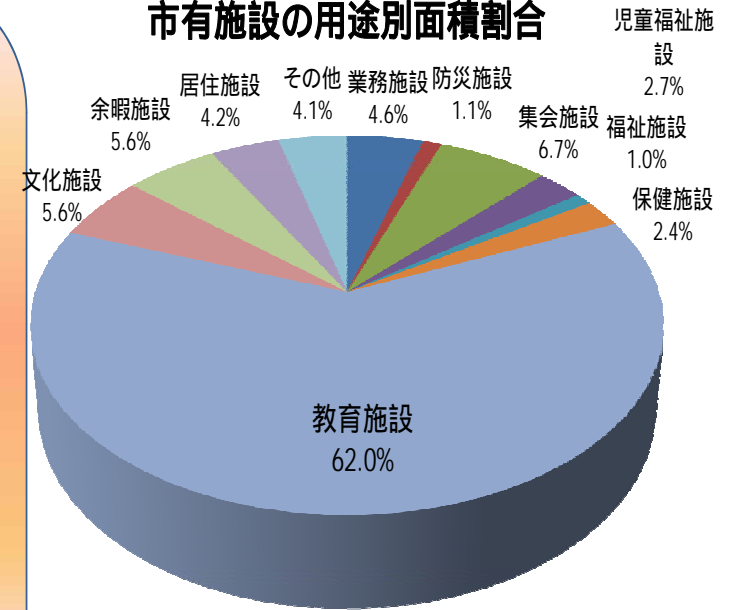
PRE同士・PREとCREのアライアンス

- ・国・県・近隣市との連携(効率性・効果性)
- ・「公」は「官」のみではない
官民連携(資産としての活用)

情報公開

- ・市民へのファシリティの「見える化」
- ・施設白書等

市有施設の用途別面積割合



BIMMSデータより(2009年11月時点)

PRE・CREのアライアンスイメージ

公	民
官	民
官	官民連携
官	民

官官連携

ボランティア・NPO・指定管理者制度

FMが『市民』『議会』『行政』を結びつけ、真に「新たな公共」をつくり出す！！

